

ペーター・ビクセル

『ライオン』

訳 佐分利 啓和

祖父も猛獣使いになりたかった。自分のことを能無しだと思ふすべての人を苛立たせるために。皆を苛立たせるために。これについて祖父は全く語ったことがなかった。彼は小さな池にカモを飼っていた。今や彼は死んでしまっている。飲み過ぎたのだ。

あるとき、自分は猛獣使いにはならないだろう、と気付いたに違いない。その時以来、サーカスの入場料が高すぎると思うようになった。

彼はきれいな娘と結婚し、天気、気温、風力について手帳に書き留めた。彼の死後、財産は分けられた。今では皆が祖父の一部を持っている。

日刊新聞のある読者が最近、43歳でフルートを予備知識なしに習得するのは果たして可能だろうか、という問い合わせを編集部にしてきた。ある編集部員が、たまたまある人のことを知っている、と答えた。64歳になっても学んだ人がいる。それにはもちろん根気、情熱、そして忍耐が重要なのだ、と。

彼が死んだとき、もう彼は何者でもなかった。背はより低くなり、自尊心を失くし、ますます分別を失い、尿意を我慢する力も無くなり、靴紐を結べなくなった。死んだときにはもう何者でもなかったのだ。死んでしまったのである。

年を取ってから彼はたくさんの葬式に出るようになり、時折、心は動かされながらもほとんど無関心な様子で教会の長椅子に座り、手で帽子をぐ

るぐると回していた。

彼の睡眠は不規則であった。所構わずよく眠り込んで、直後にまた目を覚ます。ライオンは彼の夢から消え去り、ライオンと共に夢自体も消え去った。美しい娘たちがどのようなものだったのか、もはやわからなくなり、ウェイトレスにチップを渡しすぎることもあった。

今では彼の財産は分けられている。孫たちはそれらのライオンを持って行き、丁寧にベッドの下に隠した。それは彼にとっても、私たちにとっても良いことであった。

祖父は賢くならなかったので、人は彼に何も尋ねなかった。しかし年は取った。年を取るのはとても重要なことである。ライオンを見捨てなければならぬのは辛いことだろう。ライオンは静かに去って行ったが、祖父がそれに気付くことはなかった。彼は死んでしまった。飲み過ぎたのである。

Peter Bichsel, "Die Löwen", S. 21-23, in: ders., *Eigentlich möchte Frau Blumen den Milchmann kennenlernen – 21 Geschichten*, Suhrkamp (st 2567) 1996